

大谷石の街魅力再発見

「宇都宮市と言えは？」と聞くと、多くの人がギョーザと答えるだろう。市中心部にはギョーザ店があちこちにあり、食べ歩くのも楽しい。歩いていると、同市で産出する「大谷石」を使った蔵や建物があちこちにあることに気がつく。多くが現役で、蔵を利用したレストランもある。市中心部の大谷石の建物を巡ってみた。

(戸丸由紀子)

JR宇都宮駅西口を出発して大通りを進み、銀行や郵便局の集まる交差点を左に曲がると、通りのわきに石蔵が見

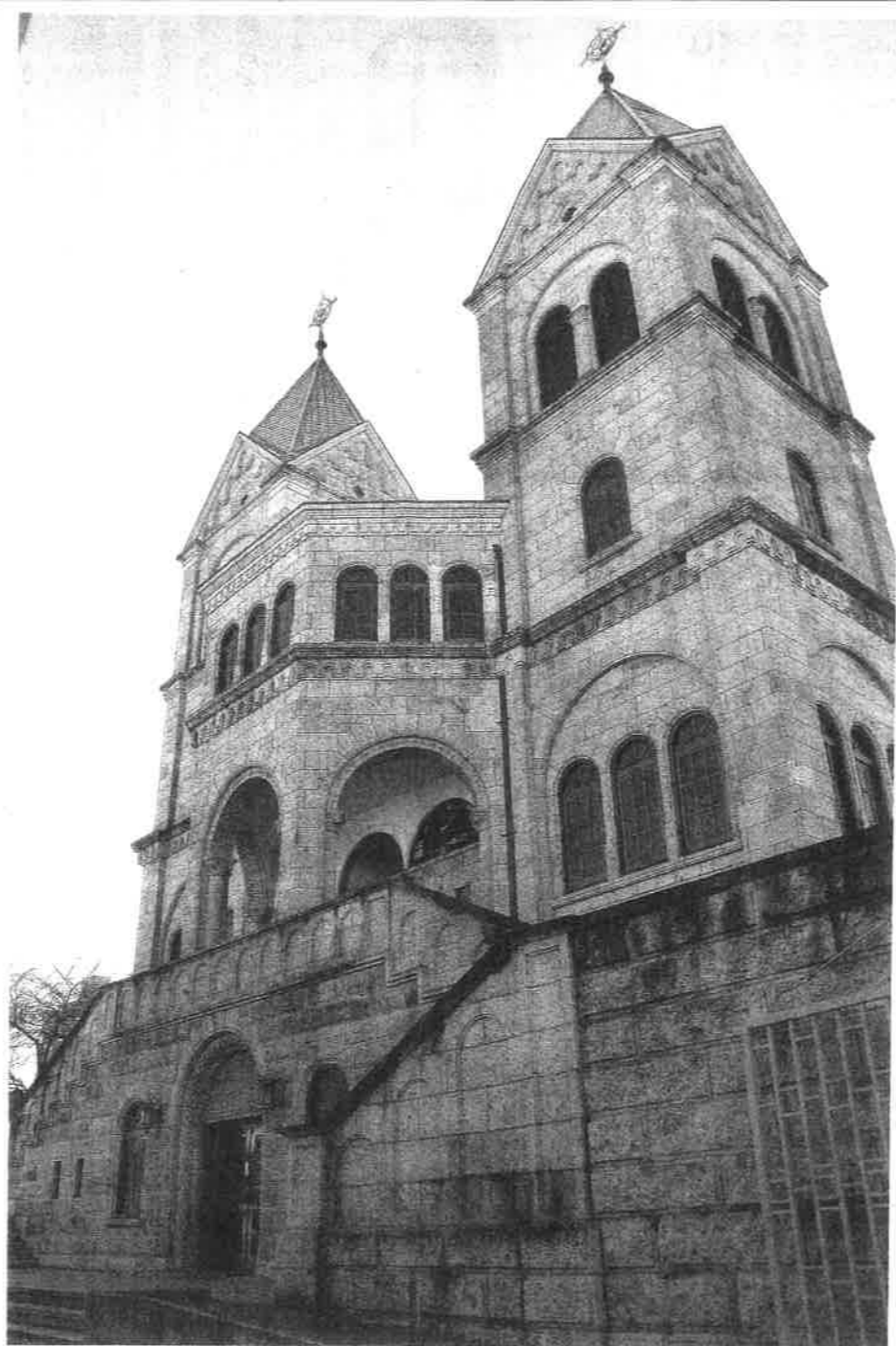
宇都宮市中心部

えてくる。江戸時代の寛永2年(1625年)創業の「青源味噌」(同市三番町)の蔵だ。

蔵は二つあり、一つは1808年(文化5年)、一つは1906年(明治39年)に建てられた。現在、江戸時代の蔵には不用の物をしまい、明治時代の蔵は材料を入れる倉庫として使っている。



- ◇青源味噌本社 宇都宮市三番町1の9。JR宇都宮駅から徒歩約10分
- ◇カトリック松が峰教会 宇都宮市松が峰1の1の5。JR宇都宮駅から約25分
- ◇石の蔵 宇都宮市東堀田2の8の8。JR宇都宮駅から約15分。ランチは午前11時30分～午後2時30分、ディナーは午後5時30分～10時30分。カフェは午前11時30分～午後5時30分

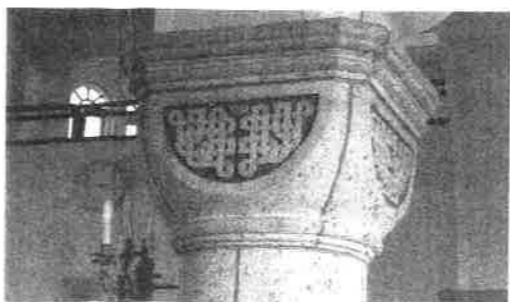


存在感のある松が峰教会。中を自由にみる事ができる

のだから、石の一部が変色している。蔵の中にあつた気象日記などの貴重な資料は無事

だったという。

蔵を離れ、東武宇都宮駅方面に歩く。駅の近くにみると、見えてきたのが「カトリック松が峰教会」(同市松が峰)だ。聖堂は1932年(昭和



教会内の柱にも大谷石が使われている

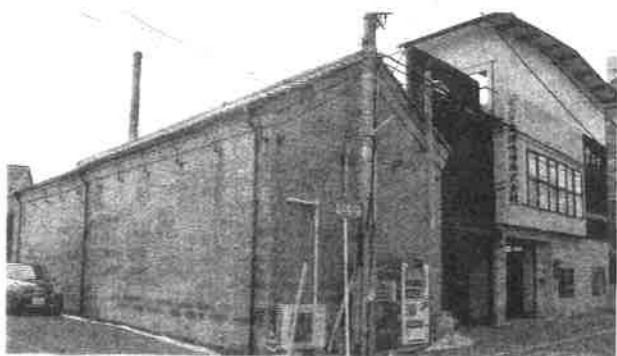


御前ザビエル神父

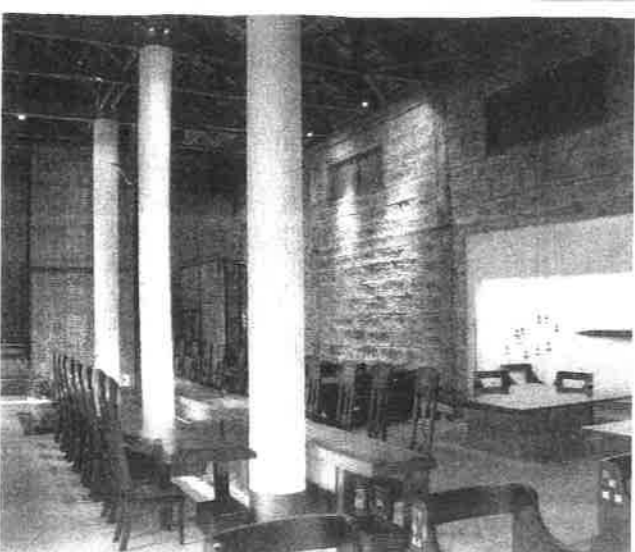
フランス出身の担当司祭、御前ザビエル神父(71)は「ここは建物の良さがありません」と、建物が教会の大きな魅力になっていると話す。それだけに結婚式の場としても人気で、2015年は23組が挙式した。御前神父は、教会は信徒だけでなく皆さんのものでもあります」と信徒以外の挙式も受け入れているほか、幸せな結婚生活を送る手伝いをしたいと、結婚について考える講座を事前に5回開いている。

原則として、教会には、誰でも、午前8時から午後8時まで自由に入る事ができる。教会に入り、いすに座っていると、ほどよい疲れもあって、すっかり落ち着いた気持ちになった。宇都宮市での暮らしも10年になるが、ふだんは車に乗ってばかり。この教会も、前を通るだけだった。街中をゆっくりと歩くと、住み慣れた街にも新たな発見がある。次はどの建物を訪ねようか。地図を眺めるのも楽しくなった。

◇ 栃木、群馬両県は多くの人が自家用車を持つ。ふだんの生活で歩く機会が少ない人も多いが、歩くことは運動になるだけでなく、ゆっくり移動することで見つけられるものも多い。連載「歩こう！ 栃木 群馬」では、歩いて行きたくなる魅力的な場所や、歩くことの楽しさを紹介する。



青源味噌に残る石蔵。隣接した建物が戦火で焼けたため、色が変わっている



蔵活用したレストランも

JR宇都宮駅西口のすぐ前に流れる田川沿いには、2棟の蔵を活用した和食中心の創作レストラン「石の蔵」(同市東堀田)がある。蔵は50〜60年ほど前に建てられたもので、2001年2月にオープンした。県産食材を使った料理が人気で、バスマリアの観光客も訪れるという。

レストラン内では年に3回ほど管弦楽やジャズピアノの演奏会を開く。壁が大谷石のため音が良いといい、マネージャーの早瀬貴志さん(42)は「演奏した方は、生の音でここまで響きのいいところはな」と言ってくれます」と話す。

加工しやすく多彩な用途

＊ 大谷石とは 宇都宮市北西部の大谷町周辺で採掘される凝灰岩で、東西約2キ・メートル、南北約5キ・メートルにわたって分布している。耐火性、防湿に優れる上、軽くて加工しやすいのが特長で、建築用材としてだけでなく、門柱やライト、生活雑貨など用途は広がっている。旧帝国ホテルに使われたことでも有名

だ。大谷石材協同組合によると、1970年代の最盛期には採掘業者が約120あり、年間89万トが出荷されていたが、現在は業者の数が約10、出荷量は1・3万トほどになっている。同町の「大谷資料館」では、深さ30メートル、広さ2万平方メートルに及ぶ地下神殿のような地下採掘場跡の一部を公開している。